

せいらんそう

社会福祉法人
芳香会誌
第 37 号
2017年10月発行



たま保育園、みんなで楽しくボディペインティング♪ (2歳児クラス)

もくじ

CONTENTS

活用します！発信します！
～先進機器の導入と効果～
・・・ 2

児童福祉施設トピックス
・・・ 4

誰もが働きやすい職場づくり
・・・ 5

次世代からのメッセージ
～学生たちとの学び合い～
・・・ 3

芳香会活動報告 ・・・ 6
芳香会スケジュール ・・・ 6
編集後記 ・・・ 6

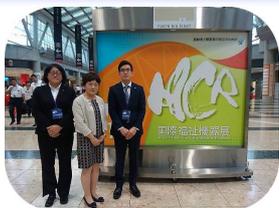


2016年4月14日に発生した熊本地震において被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、当法人も引き続き復興に向けた支援活動に取り組んでまいります。

活用します！発信します！ ～先進機器の導入と効果～

社会福祉法人芳香会では、職員の軽労化を主たる目的として先進機器の導入を積極的に進めております。これまで何度か特集を組んで参りましたが、今号では新たな機器の紹介、そして導入と活用を通して得られた効果を広く発信する取り組みとして、国際福祉機器展における実践報告についてご紹介致します。

実践の“見える化”を目指して



平成二十九年九月二十七日、東京ビッグサイトで開催された『第四回 国際福祉機器展 HCR2017』のセミナーにおいて、当法人で導入しているメインタルコミットロボットPAROの活用について、青嵐荘のとう舎と青嵐荘療護園の合同で、テーマは『メインタルコミットロボットPARO』の更なる可能性について、障害者支援施設での活用方法と利用者の変化について』発表しました。

現在、路のとう舎（知的）、療護園（身体&知的）二施設での共通事項としてご利用者の障害の重度化が進み、日中活動への参加が難しい方が増えております。また、参加意欲の低下も窺えます。そこでセラピー効果があると言われているPAROを使用する事で視覚や聴覚、触覚を刺激し、職員とのコミュニケーションを介して楽しみや癒しを感じて貰いながら、参加意欲の向上へ繋がりたいと考えております。



青嵐荘のとう舎では対象者を五名選出しPARO使用前と使用後での様な変化が見られるのか、青嵐荘療護園では対象者を四名選出し、PARO使用前と使用後の変化についてとストレスの増減を数値化するアミラーゼモニターを活用し、使用前と使用後の変化を測定しました。

青嵐荘のとう舎、青嵐荘療護園の利用者共にPAROを紹介してコミュニケーションを図る事で表情が柔らかくなり、活動への参加拒否がある際にも気持ちの切り替えが出来ておりました。また、アミラーゼ値についても変化が見られ、PAROの使用がストレスの軽減に少なからず関係しているという事も分かりました。発表後には貴重なご意見を頂戴し、今後の取り組みの参考にさせて頂こうと思っております。

【青嵐荘療護園 生活支援員 山田善大】

マッスルスーツの可能性を探る

医療・介護業界における、介護者の作業負担の軽減や腰痛予防対策等を目的として、多くの装着型移乗支援用の福祉機器が開発されてきているが、実用的といえるものは少なく未だ開発途上であると感ずる。

当法人においても、これまでにHAL介護支援用腰タイプやスマートスーツなど導入し、後者においては、その成果や検証データ等を開発者の下に直にフィードバックするなど、新たな製品開発や技術改善等に貢献してきた。また、芳香会社会福祉研究所協力のもと、イノベーション委員会での成果を取りまとめ、実務研究発表会などにおいて実践実践報告等を行って

きた。

今回新たに、東京理科大学で開発された装着型腰補助用マッスルスーツ（スタンドアロントタイプ）を、青嵐荘療育園ならびに青嵐荘特別養護老人ホームにおいて、計三台を導入した。

両施設とも、装着型のスマートスーツを導入した経験があり、特別養護老人ホームにおいては、HAL介護支援用腰タイプを一台導入し現在も使用継続中である。



本製品を導入するにあたり、これまでの経験から得られた知見や検証データ、実際に装着体験する中から得られられない細かな製品の持つ良い悪い等、その比較検証作業を実践するとともに、更に今回は介護現場の枠を超えた使用場面の設定、クリーン活動や災害対応等での使用などを想定し、これまでの検証等を実施し、職員一人一人の仕事に対する意識の向上、作業負担の軽減や腰痛予防対策など、あらゆる職場環境の改善に繋がっていかねばと考えている。

【青嵐荘特別養護老人ホーム 理学療法士 村上守】

とてもスタイリッシュなデザインです！



次世代からのメッセージ ～学生たちの学び合い～

社会福祉法人芳香会では、インターンシップや実習生の受入れを積極的にを行い、次世代を担う専門職の育成に力を注いでいます。今号では外国人留学生の紹介も交えながら、学生たちからの熱いメッセージを掲載します。

自分の未来をきいてみよう

地域の高校生を対象として、福祉施設に勤務する各専門職の仕事内容が体験できる「インターンシップ」を今年度も開催しました。夏休み期間中に、三十一名の学生が希望する職種の実験に従事しました。一部感想を紹介します。

“腰を痛めないようリフトを使ったり、利用者を楽に移動させられるようシートを使ったりと、リハビリをする場面でも便利な道具があることが分かった。最近ではマッスルスーツなどが使われているような場所もあり、ロボット技術はこういった場でも役に立つ事を実感した。”

【理学療法士体験：高三男子】

“施設で働く社会福祉士がどのような仕事をしているのか今まで以上に詳しく知ることができた。事務仕事や利用者との関わりだけでなく、罪を犯してしまった方の更生や社会貢献のための支援もしている事を知り驚いた。”

【社会福祉士体験：高二女子】

職業選択の一助と、「福祉」への興味・関心を更に深める契機となった事を切に願います。

【青嵐荘療護園 相談支援員 大塚篤史】

実習生への インタビュ

続いて、今年度現場実習に従事した三名の学生のインタビュをご紹介します。

★茨城キリスト教大学 生活科学部

心理福祉学科 鈴木七夏海さん★

① 実習で学んでいる学んだ事
利用者の方々と関わりながら、その人らしい生活、取り巻く環境、専門職の連携について理解を深め、“利用者主体の支援”を行うソーシャルワーカーの役割について学びました。

② 感銘を受けたエピソード

言葉がなかなか聞き取れなかった私に対して、何回聞き返しても嫌な顔せず理解できるまで繰り返ししてくれるご利用者がいました。コミュニケーションに自信がなかった私に、楽しさと喜びを実感させてくれました。

③ 将来の夢

ソーシャルワーカーになり、障害者支援施設で働きたいです。

◆ 晃陽看護栄養専門学校 栄養士学科

木村匠さん・染谷雅さん◆

① 実習の中で最も印象に残ったこと
木村・ケア・アシスタンスでカンファレンスに参加した事。1人の利用者について様々な職種が話し合い、より良い方向に導くプランを作る経過を見る事が出来た。貴重な体験だった。

染谷・療育園での食事介助。ただ食べさせるだけでなく、一口量を考えたり、飲み込みの確認、スプーンの持ち方の工夫等、対象者の状態を考えながら介助を行っている事を知った。



② 芳香会で実習をしてみた感想
木村・染谷・管理栄養士が利用者のことを第一に考えて業務にあたる姿に感銘を受けた。この実習内容を生かせるように今後の学校生活でも日々努力を重ねていきたい。

笑顔あふれるニューフェイス

青嵐荘療護園では、平成二十九年よりインドネシア人留学生二名サトリヤさん、又ニンさんを採用しました。二人は芳香会の奨学金制度を活用し、石川県の専門学校で学びながら介護福祉士の資格取得を目指しています。

八月二十八日から、又ニンさんが学校の夏休みを利用して、療護園でアルバイトに従事しました。最初にお会いした二月から約半年が経過し、現在は介護福祉学科の一年生です。最初は緊張した様子でしたが、数日経過するとご利用者と笑顔でコミュニケーションが取れるようになり、食事や入浴介助の補助等を担当しました。「色々なご利用者とお話できてとても楽しかったです。また来年が楽しみです。」との前向きな感想も聞かれました。

サトリヤさんは、冬休みにアルバイトを予定しています。また、七月の日本語能力試験二級に合格し、次は介護福祉士国家試験の合格を目標に、あと一年半勉強する予定です。二人は介護福祉学科二年生になってもアルバイトを継続し、平成三十一年度には法人内初のインドネシア人介護福祉士として就業できるよう、サポートを継続していきます。



【青嵐荘療護園 係長 土堂哲弘】

児童福祉施設トピックス

梨園散策を通して繋がる地域の輪



たま保育園では、九月十二日（火）谷貝梨・ぶどう園さんに梨狩り（梨園の散策）に行ってきました。梨狩りは四年ほど前から始まり、結城市の農村女性グループ『結城パウロニアクラブ』さんにお声掛け頂き、梨狩りに参加する市民の方と交流も行っていきます。

当日は、あいにくの雨で梨狩りは出来ませんでした。年長児のみ梨園に出掛け、散策させて頂きました。

梨の木は低くて手を伸ばせば梨の実に届きそうなこと、枝は横に伸びて広がっていること、葉はギザギザしていることなど気付いたことを友だち同士会話している姿がありました。また、梨園には蝉が沢山いたので子どもたちは大興奮でした。

ぶどう園の方に行くと、オーナーさんから種無しマスカットの『シャイン』をご馳走になりました。その場でみんなで分け合い、美味しく頂きました。



子どもたちは、ぶどうの木と梨の木は形が違う事にも気が付き、良く観察していました。最後に留守番している園児の分も梨と巨峰のお土産を頂き、保育園に戻ってから給食の時間に食べました。また、家庭に持ち帰り用の梨



と巨峰も頂き、保護者の方がお迎えに来ると「見てー！」と得意気にしていた子どもたちです。

残念ながら、昨年、今年とお天気に恵まれず梨狩りと市民の方との触れ合いは出来ませんでした。年長児は梨園の散策が出来たこと、他の園児は梨とぶどうのお土産をもらったことが良い思い出になったかと思えます。

年長児は、後日『他のクラスの子どもたちの様子を教えてあげよう』と梨園の絵を描きました。

今後、地域の方のご好意に感謝し、交流や季節ならではの行事を大切にしていきたいと思っています。

【たま保育園 主任保育士 宇留野 礼】

キッズボランティア体験実施



牛ヶ谷保育園では、今年度も八月二十一日（三十一日）の間に卒園児（在園児の兄弟等）を対象にキッズボランティア体験を行いました。この企画は今年で三年目を迎えますが、毎年とも人気があり、今年も小学生から高校生まで総勢二十二名の参加がありました。

乳児（〇、一、二歳児）クラスではおむつ替えやお着替えの体験、寝かしつけなども行ってくれました。幼児（三、四、五歳児）クラスでは、以前一緒に遊んだことのあるお兄さんお姉さんたちと久しぶりに、おにごっこをして遊んだり、プール遊び



では小学生が準備体操の模範、積極的にお着替えの補助も行ってくれました。また、お昼寝前には小学生たちが絵本の読み聞かせをしてくれ、保育園の子たちはいつも以上に集中して聞き入っていました。



また、お昼寝の時間に小学生たちが自宅から持参した夏休みの宿題をしていると、就学に向けてひらがなの練習をしていた年長児が、勉強道具に興味津々で筆箱の中を見せてもらったり、ひらがなの書き順や形を教えてもらいました。年長児は、少し不安な学校生活に期待と興味を示していました。

ボランティアが終了した後も、お兄さんお姉さんたちから刺激を受けて、お昼寝前には子どもたち同士で紙芝居を読んだり、小さい子に対して今まで以上に優しい関わり場面が多く見られました。

参加したボランティアには、「牛ヶ谷保育園で行っている異年齢保育で日常的に年下の子と関わって成長してきた」卒園児が小学生、中学生となり、人との関わりがより一層上手になり、心も体もひとまわりも成長した姿を見ることができ、とても微笑ましかったです。



また、こうした体験を通して将来、保育士という職業選択の可能性に繋がっていただけると良いなと思っています。

【牛ヶ谷保育園 保育士 鈴木恵美】



誰もが働きやすい職場づくり



芳香会では、現在十三名の障害者の方が各事業所において活躍されております。今号では、養護老人ホームで新たな生活がスタートしたY介助員について、また九月に行われた障害者雇用優良事業所等表彰式の様子をお伝え致します。

青嵐荘養護老人ホーム Y介助員の新たな生活



「おはよう」やわらかい挨拶とともに事務所まで名札を返す。着替えを済ませて準備を整えると、いつもの場所から掃除に取り掛かる。平成二十四年から当施設の介助員として勤務しているYさん。出勤の様子はいつもと変わりありませんが、今年の七月から新しい生活を送られています。

大きく変わったのは「生活の場」です。これまではグループホームふきのとうでの共同生活を送りながら自転車通勤をしていました。しかし、年齢を重ねるにつれて生活面での見守りが少しずつ増え、耳が遠くなったことで接近する車両にも気づきにくくなり、通勤時の事故に遭う心配も増えつつありました。



そこでYさんが安心して生活が送れるよう養護老人ホームで今年度から開始した「独自入所事業」を利用して生活を送る調整を図りました。Yさんには慣れ親しんだグループホームから生活する環境が変わるため、説明の段階で断られないかという

心配もありましたが「雨の日に自転車乗らなくていいからいいな」と笑顔で快諾。複数回に分けて面接を行い、七月から利用していただいています。Yさんは勤務六年目ということで養護利用者の十分な理解やフォローもあり、新生活に慣れるまではさほど時間はかかりませんでした。同じテーブルの方と一緒にテレビで大相撲を観戦し、夕食前の晩酌も楽しんでいます。



最近では園芸活動にも興味がある様子であったことからプランター栽培の花や野菜への水遣り、収穫作業を日々の業務に新たに組み込みました。業務内容の幅が広がり、本人も一生懸命に取り組みれています。休日でも自主的にプランターを確認して水遣りをしたり、「白菜の芽が出たな」とうれしそうに報告してくれます。

新しい生活は今のところ順調ですが、これから様々な課題も出てくると思います。Yさんが笑顔で活き活きと生活が送れるよう伴走していきたいと思えます。

【青嵐荘養護老人ホーム 施設長 根本隆行】

障害者雇用優良事業所等表彰 理事長表彰受賞



芳香会の障害者雇用への取組みは、古く昭和五十五年から始まっています。当時は一名の雇用からのスタートで、主にゴミの焼却業務や清掃業務にあたってもらっておりました。

現在は、十三名の雇用障害者が各事業所で働き、洗濯業務や清掃業務等非常に大きな力と

なっており、支えておられます。

今日に至る芳香会の取組みは、現理事長の雇用障害者に対する、社会の中で社会の一員として働き、障害があってもその人らしく生きられる社会であって欲しい、という熱い思いがあります。

そのような理事長の思い、また、障害を持つ方たちがもっと働きやすい職場を目指そうと、平成二十九年六月に法人内事業所間で、障害者雇用事業所連絡会を立ち上げました。

各事業所相談窓口担当者が一同に会し、定期的に情報交換を行い、職場の環境改善や整備等に向けて話し合いや検討を行います。

そのような芳香会の取組みが評価され、この度、平成二十九年年度障害者雇用優良事業所等表彰において、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構理事長表彰を受賞することとなりました。

平成二十九年九月五日、東京丸の内で行われた表彰式には、加藤厚生労働大臣も出席され、各界から多くの出席者もある中、宇留野理事長が表彰状を授与されました。

三十年以上におよぶ芳香会の



取組みが評価されたと同時に、今後さらさら障害を持つ方が、地域で安定した生活を営むことができるよう、また長く仕事を続けていけるよう、芳香会は、障害者雇用を積極的に取り組んでいきたいと考えております。

【芳香会病院青嵐荘療育園
児童指導員 齋藤修治】



芳香会活動報告



こんな福利厚生もあります！



芳香会では、平成二十八年度から福利厚生の一環として、「綱引き」を取り入れております。



きつかけとなったのは、二〇一九年のいきいき茨城ゆめ国体（第七十四回国民体育大会）の綱引会場に古河市が選定されたことにより、開催された「第一回古河市綱引きフェスティバル」。宇留野理事長からご提案頂き、上大野地区、結城・尾崎地区にあります事業所からそれぞれ一チームずつ参加しました。試合が開始すると職員同士声を掛け合い全力で取り組む様子が見られ、事業所の垣根を越えて職員同士交流を深める機会となりました。

また、フェスティバル参加を契機に法人内においても、「ふれあい囲碁&綱引き大会」を実施し、芳香会お馴染みのふれあい囲碁と共に、綱引きを行いました。総勢四十五名、四チーム対抗戦での真剣勝負。全体を通して、コミュニケーションを図りながら、勝負に臨む姿が多くみられました。スポーツやゲーム、普段の業務での関わりとまた一味違う時間を一緒に共有することで互いの刺激になったり、その後の業務に対するモチベーションや職場の士気を上げるきっかけになればと感じております。

先日、九月十七日（日）に開催された「第二回古河市綱引



フェスティバル」においても、第一回に引き続き参加させて頂きました。今後も法人を内部から盛り上げ、業務に反映出来るようなきつかけづくりを発信することができるよう努力して参ります。



【芳香会法人本部事務局 事務員 谷口絢香】

芳香会からお知らせ

第4回 社会福祉法人から発信する「地域づくり講演会」開催

秋田発「福祉でまちづくり」を学ぶ
平成29年11月18日(土)
10:00-12:30

結城市民情報センター 多目的ホール
(結城市国府町1-1-1)

※参加費無料

【お申込み・お問い合わせ先】
社会福祉法人芳香会
法人本部事務局
ページ下部連絡先まで

芳香会スケジュール

- 十月四日 苦情解決第三者委員会 上大野グラウンド前
- 十月五日 交通安全講習 花壇植栽活動
- 十月十三日 交通安全講習 役職者対象研修会
- 十月十九日 交通安全講習 役職者対象研修会
- 十月十九日 交通安全講習 役職者対象研修会
- 十月二十五日 苦情受付体制委員会研修会 法人内ヒアリング
- 十一月二日 理事会
- 十一月十一日 移動献血事業 結城（尾崎）地域づくり講演会
- 十一月十四日 移動献血事業 結城（尾崎）地域づくり講演会
- 十一月十八日 移動献血事業 結城（尾崎）地域づくり講演会
- 十一月二十四日 評議員会
- 十一月二十五日 社用車実務研修会
- 十一月 下旬 実務研究発表会
- 十二月二十二日 資格取得・永年勤続者 記念品授与式

編集後記

朱赤の彼岸花が目に残り、秋の訪れが心地よく感じられるこの頃となりました。先日のリーダーシップ研修時に、相田みつをさんの言葉より「やれなかつたのではな

（光）

毎度毎度の子育てネタで恐縮ですが、本格的な夜泣きが始まり、毎日が睡眠不足との戦いです。眠そうにしている私を咎めない上司と同僚には本当に感謝です。体に負担の掛からない眠気覚ましの方法がありましたら、是非ご一報下さい。

（賢）

この場をお借りして、皆さんにお知らせです。上記スケジュールに記載の通り、十一月に今年度第二回目の献血事業を予定しております。些細な社会貢献としていかがでしょうか。私も参加予定です。ご連絡お待ちしております。

（絢）



社会福祉法人 芳香会

発行責任者/法人事務局 編集/会報誌作成委員会

〒306-0201 茨城県古河市上大野698

TEL 0280-97-1027(代) FAX 0280-97-1112

ホームページ <http://www.houkoukai.or.jp> メールアドレス honbu@houkoukai.or.jp

※写真等の個人情報は、ご本人の同意を得て、掲載させていただいております。